

特定非営利活動法人 日本免疫学会

Tadamitsu Kishimoto International Travel Award for the 15th ICI

研究発表報告書

申請者氏名	内山 雅 照	会員番号	0032277
申請者の 所属・職名	帝京大学医学部 心臓血管外科学講座 助教		
出席会議名	15th International Congress of Immunology		
発表論文 タイトル	An Agonistic Anti-BTLA mAb (3C10) Induced Generation of IL-10 Dependent Regulatory CD4+ T Cells and Prolongation of Murine Cardiac Allograft.		

実施結果:

この度は、Tadamitsu Kishimoto International Travel Awardを賜り、誠にありがとうございます。岸本忠三先生をはじめ選考委員の皆様、御推薦頂きました順天堂大学免疫学講座八木田秀雄先生に心より御礼申し上げます。

私は2013年8月22日から27日、イタリア・ミラノで開催されました第15回国際免疫学会に参加させて頂きました。一外科医が基礎免疫学に関する国際学会に参加し報告することは大変緊張感のあるものでしたが、大きな刺激を得るものだと信じ参加致しました。

当学会では、我々が研究する一般的なregulatory T細胞だけではなく、regulatory B細胞や近年話題のfollicular helper T細胞やNHT細胞等のプログラムも組みまれており、免疫学全体の最先端の研究を俯瞰することが出来ました。

私は今回、抗BTLA抗体によるIL-10依存性制御性T細胞の誘導と心臓移植片の生着延長効果について報告させて頂きました。BTLA(B and T Lymphocyte Attenuator; CD272)はCD28、CTLA-4、ICOS及びPD-1等を含む受容体のCD28ファミリーメンバーであり、Th1細胞における差次的発現に関するスクリーニングを介して発見され、CTLA-4に類似した抑制性シグナルを提供すると言われていました。CD28ファミリーメンバーの解明の進歩に従い、抗PD-1抗体や抗CTLA-4抗体等の抑制性受容体に着目した抗体に関する研究は多く成されていますが、抗BTLA抗体の移植免疫に関する有用性は依然研究の余地が残っており、MHCフルミスマッチマウス心臓移植モデルを用いて調査しました。当抗体を使用しTh1サイトカインを抑制し、間接的にTh2サイトカインを優位にすることで制御性T細胞を誘導することを初めて示唆した研究として報告させて頂きました。長期生着後の病理的変化等不明な部分もまだ残っていますが、今回の参加によりdonor specific antibodyの測定方法や評価法等について助言頂き、次の段階に向けて有意義な意見交換も行えました。

本学会に参加できたことは一臨床医である私には非常に貴重な経験となり、今回の学会参加を通じて得られた刺激や知識を生かし、免疫学研究の発展について少しでも貢献出来るように精進してまいりたいと思っております。